

6 1 5 号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所 2020. 8. 10

☆県産和牛肉に入善町小学生が舌鼓！…… 1
☆野生いのししへの豚熱（CSF）
経口ワクチン散布等について…… 2
☆飼養衛生管理基準が改正されました …… 3

☆牛の皮膚糸状菌症にお困りでは
ありませんか?? …… 4
☆畜産領域における衛生害虫対策…… 5
☆防疫情報…… 6
☆北陸三県和牛子牛市場開催される…… 6

県産和牛肉に入善町小学生が舌鼓！



新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けた県産和牛肉等の需要拡大を図るため、国の緊急対策関連事業（和牛肉等販売促進緊急対策事業）を活用し、富山県和牛肉等販売促進協議会と市町村等が連携して、県内全ての小・中学校及び特別支援学校で県産和牛肉等を使用した給食の提供を7月から開始しています。

7月3日（金）には、県内最初に入善町の小・中学校で給食が提供され、町立上青小学校では全校児童162人が県産和牛ロース肉のサイコロステーキを味わいました（左写真）。3密回避のため、普段は全児童と一緒に食事するランチルームには5・6年生のみ約60人が集まり、残りの児童は各教室で食事を楽しみました。ランチルームでは生産者である県肉用牛協会の柏篤会長と会員で同町の谷口勝芳さんが同席し、食事後、児童からの肉牛に関する素朴な質問に答えるとともに、「とやま牛」生産への思いについても熱く語りかけました（右写真）。

この取り組みを通じて児童たちが県産和牛肉のおいしさを家族に伝え、今後家庭でも和牛肉を食べる機会が増えることが期待されます。
（東部家保環境課 中村主任）

野生いのししへの豚熱(CSF)経口ワクチン散布等について

昨年の7月に県内で初めて野生いのししで感染が確認されたCSFは、その感染区域が県内全域に広がろうとしています。昨年10月から、飼養豚に対してワクチン接種が行われていますが、ワクチン接種の効果も100%ではないことから、昨年に引き続き今年度も夏期と冬期に野生いのししへのCSF経口ワクチンの散布を行うこととしていますので、その概要を紹介いたします。

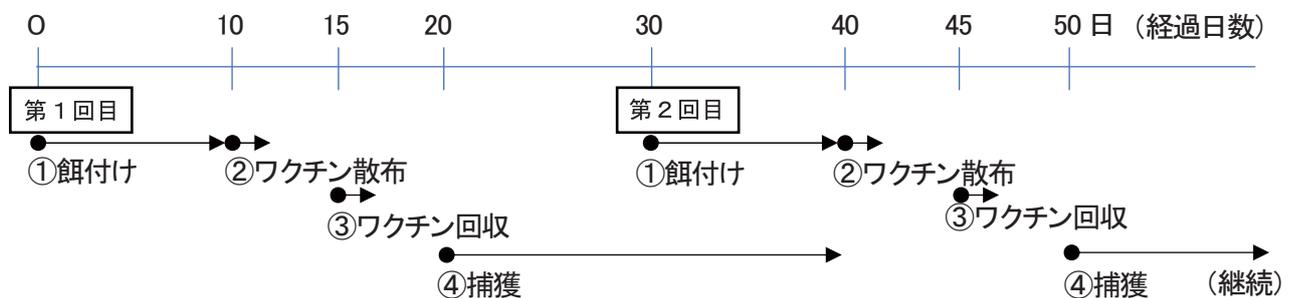


CSF 経口ワクチン

1 CSF 経口ワクチンについて

- ・経口ワクチンの形状は、液状ワクチン（アルミ包）の周りをトウモロコシ粉等で包んでいる。大きさ4×4×1.5cm。いのししが噛むと、中のアルミ包が破れて漏れ出したワクチンを扁桃から吸収する。
- ・いのししに免疫力を持たせるためには、経口ワクチンを2回（1か月間隔で）食べさせる必要がある。
- ・経口ワクチンの散布時期は、夏期（7～8月）、冬期（10～11月、予定）の2期。

2 CSF 経口ワクチン散布の経時フロー（詳細は本誌604号を参照）



3 本県での野生いのししへのCSF経口ワクチン散布対策の実施について

(1) 実施方針

国においては、野生いのししにおけるCSFの感染拡大を防ぎ、その後の清浄化を目指すことを目的に、いのしし感染エリアの外側（ワクチンベルト）を重点的にワクチン散布してきました。CSFまん延防止のためには、感染エリア内においても散布が必要であり、本県においても昨年に引き続き事業を活用し、富山県CSF経口ワクチン対策協議会が中心となり、野生いのししへのCSF経口ワクチンの散布（182か所・10,890個）を実施しています。

(2) 事業の内容

- ① 経口ワクチン購入・保管支援
- ② 経口ワクチン散布・回収支援
- ③ ワクチン散布エリアにおけるCSF（サーベイランス）検査

(3) 事業実施主体

富山県CSF経口ワクチン対策協議会（構成員：県・市町村・猟友会・（公社）畜産振興協会等）

(4) 支援内容

- ① ワクチン散布及び回収に係る人件費・消耗品費 等
- ② サーベイランスに係る捕獲いのししの検査費・運搬費・死体処理費 等
- ③ 検体調査協力促進費

(5) 今後のスケジュール

時期	取り組み内容
7月	夏期第1回 経口ワクチン散布・いのしし捕獲
8月	夏期第2回 経口ワクチン散布・いのしし捕獲
10月	冬期第1回 経口ワクチン散布・いのしし捕獲（予定）
11月	冬期第2回 経口ワクチン散布・いのしし捕獲（予定）
12月	ワクチン散布の実効性・有効性の評価

(6) 散布地域（ は今回から新たに追加する地域）

富山市、南砺市、砺波市、小矢部市、氷見市、立山町、上市町、滑川市、魚津市、黒部市、高岡市

（農業技術課畜産振興班 蓮沼副主幹）

飼養衛生管理基準が改正されました

令和2年6月30日付けで飼養衛生管理基準の改正が公布されました。

豚等の基準は令和2年7月1日、その他の畜種は令和2年10月1日に施行されますが、一部の取組みについては猶予期間が設定されています。

今回の改正のポイントは、**農場毎の飼養衛生管理マニュアルの作成**等、本基準を現場で徹底するための取組みが規定されたこと、一昨年からの豚熱（豚コレラ）への対応において従来の基準から追加されてきた内容のうち他畜種にも共通する部分が反映されたこと、です。

具体的には馬以外の各畜種で、飼養衛生管理区域内で猫などの愛玩動物を飼育することが禁止されることとなりました。

また、家畜伝染病予防法では第三十四条で家畜伝染病のまん延を防止するため必要があるときは、都道府県知事が一定種類の家畜の放牧等を制限することができることと定められていますが、本項が適用されて放牧が制限された場合に備え、家畜の避難や移動のための準備措置を講じること（猶予期間：豚は令和3年4月、牛及び山羊等は令和3年10月）や大臣指定地域で豚の放牧を行う際には給餌場に防鳥ネットを設置したり、家畜を収容できる避難施設を確保すること等の規定が追加されました（猶予期間：令和2年11月）。

避難施設が満たすべき要件等、詳細が追って制定される事項も多いのですが、農家の皆様には確定し次第、内容をお伝えしたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

下記の農林水産省のサイトで飼養衛生管理基準の全文やガイドブックを閲覧することができます。

また、ガイドブックの動画版も見ることができますので、ぜひ下記リンクからご覧になってください。

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/index.html



ガイドブックの動画版

(西部家保防疫課 池上課長)

牛の皮膚糸状菌症にお困りではありませんか??

農家を訪れると、写真のように目や耳の周囲が脱毛し、白い水玉模様のように見える子牛達を見かけることがあります。

皆さんの農場では大丈夫でしょうか??これは、カビが原因でおこる皮膚炎で、病気の名前は牛の皮膚糸状菌症といいます。

★原因や感染経路は??

牛で最も主な原因菌となるのは、トリコフィートンベルコーザムという真菌（カビの仲間）です。

感染した牛の皮膚には円形の脱毛部ができ、脱毛部には無数のカビの胞子が存在しています。

この胞子がついた皮膚や壁、柵などに直接皮膚が触れることで容易に感染が広がっていきます。



脱毛部は目・耳の周囲に起こりやすい

★感染しやすい牛はどんな牛?

- ・ 育成期
 - ・ 栄養状態が悪い牛
 - ・ 肺炎や下痢にかかり抵抗力が弱い牛
 - ・ 群飼いや等々のストレスがかかる飼養環境 など
- 牛の栄養状態のバランスが崩れ、大きなストレスがかかる農場で多発する傾向があります。



皮膚同士の触れ合いや感染牛の触れた柵や壁に触れることで牛や人へも感染が広がる

★治療や対策として

①抗真菌薬を獣医師に処方してもらい、脱毛部へ直接塗布します。(完治まで根気よく継続を…。なるべく小さい病変のうちに治療を開始しましょう。)

②牛舎環境の定期的な消毒

感染牛が触れた柵や壁には胞子が付着します。特に柵など鉄でできた部位には、胞子がより定着しやすいという報告があります。消毒を実施する際は、牛舎の鉄の部位を意識して行うとより効率的と考えられます。

③農場の飼養管理を見直しましょう!

密飼いや等、牛にストレスがかかる要因を見直しましょう!

★牛の皮膚糸状菌症は人獣共通感染症です!

この真菌は、牛だけでなく人や他の動物にも容易に感染します。人に感染すると、右写真のように皮膚にピンク色のドーナツ状病変ができ、痒みを伴います。これからの暑い季節、半袖で作業されることも多いと思いますが、人への感染のリスクが高まりますのでご注意ください。



人への感染例

(出典：家畜疾病カラーアトラス)

(西部家保検査課 西村主任)

畜産領域における衛生害虫対策

人や動物に害を与える動物を「衛生動物」といい、その中の節足動物を「衛生害虫」といいます。農場周辺に衛生害虫が発生すると、家畜のみならず人にも不快感を与え、各種疾病の媒介(ウイルス性疾病・細菌性疾病・原虫病・寄生虫症など)、さらに周辺住民からの苦情や畜産物に対する消費者のイメージが悪くなる等、様々な弊害が生じることになります。



今回は衛生害虫のうちハエ類の防除対策について紹介します

家畜の糞尿、堆肥などから発生するハエは、主としてイエバエ、ヒメイエバエ、オオイエバエ、サシバエなどです。

イエバエ

発生源：堆肥では好気性発酵により内部温度が上がるため、幼虫は高温層を避け表層から20～30cmの深さのところに生息しており、種類としてはイエバエ、サシバエが多く、さなぎ蛹の時期にはあらゆる薬剤が無効となります。

対策：イエバエの生涯は一か月半ほどです。ハエの防除は薬剤による防除にたよりがちになりますが、物理的な方法なども組み合わせて多面的な対策を行われなければ十分な効果は得られません。

1 幼虫(ウジ)対策

ハエは直接堆肥に産卵することは少なく、多くは畜舎中の糞中に産卵され幼虫は糞塊中で成長するので、こまめな糞出しや堆肥の切り返しによる発酵熱の利用、また、ウジ対策として、殺蛆剤や昆虫成長抑制剤(IGR剤；幼虫の蛹化・羽化を阻害する)を散布するのが効果的です。

2 成虫対策

殺虫剤などの薬剤使用と並行して、物理的な防除(成虫にはハエとりシート、電撃殺虫器の設置)を行うことが大切です。

殺虫剤

ハエの発育ステージによって効果の程度が違うので、使用する薬剤についても単一のものだけを使用しているのでは効果が上がりず、ハエが耐性を獲得することになります。殺虫剤散布で生き残ったハエが持つ遺伝的耐性因子が後代へ遺伝し、薬剤散布を繰り返すことによりその因子を持つハエが増えて殺虫剤の効果が低下します。薬剤には、出荷制限のあるものもありますので、使用に際しては必ず用法用量を守りましょう。

サシバエ

発生源：餌箱・水飲み場周囲、堆肥舎、糞や飼料、敷料・牛舎のマット下やバーンクリーナー等。「サシバエ」は、イエバエ科に属し、イエバエとライフサイクルもよく似ています。

対策：発生源対策と幼虫対策が非常に重要です。

1 発生源対策

糞を1週間以上放置せず適正な処理を行ってください。また、こぼれた飼料は早めに処分しこまめに畜舎内を清掃してください。ハエの休息場所である畜舎周辺の草刈りをおこなってください。

2 幼虫(ウジ)対策

昆虫成長抑制剤等の散布は、毎月最低2回程度を11月位まで、畜舎周辺やバーンクリーナー、堆肥場等に繰返し行ってください。サシバエ対策は秋まで実施してください。

イエバエ、サシバエとも、一般に春から初夏にかけてと秋口の2回大発生することがあります。秋のハエの徹底駆除が幼虫や越冬する成虫数を減少させ、翌年の春や夏のハエの数を大幅に抑えることにも繋がります。

対策は、その時期にあった方法で効果的に実施してください。なによりも畜舎内のこまめな清掃や、適切な堆肥処理、畜舎環境を清潔に保つことが、もっとも基本的な防除対策です。

(西部家保環境課 加納上席専門員)

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

なし

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
山羊のコクシジウム病	山羊	6月22日	1	1	
		7月8日	1	1	
牛伝染性リンパ腫（届出伝染病）	牛	6月30日	1	1	
マレック病（届出伝染病）	鶏	7月1日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	7月8日	1	1	
		7月16日	1	1	
鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と鶏コクシジウム病	鶏	7月20日	1	1	
牛ロタウイルス病	牛	7月27日	1	2	

県内の野生いのししの豚熱(CSF)感染確認検査の結果

県内で初めて野生いのししのCSF感染が確認された、令和元年7月30日以降の検査結果は右表のとおりで、8月4日現在、滑川市、黒部市、舟橋村、入善町、朝日町を除く10市町で感染が確認されています。なお、全国では1ヵ月当たりの確認頭数は減少傾向にありますが、今年度CSFに新たに感染した野生いのししが見つかったのは、新潟県、京都府、神奈川県、茨城県、東京都の5都府県で、生息範囲は少しずつ広がっています。養豚農家の皆様には、引続き防護柵及び防鳥ネットの点検・修繕、畜舎回りの定期的消毒の徹底等をお願いします。

(8月4日現在)(単位:頭)

区 分	陽性	陰性	計
死亡いのしし	21	3	24
捕獲いのしし	53	272	325
合 計	74	275	349

北陸三県和牛子牛市場開催される

7月30日(木)、金沢市の北陸三県家畜市場において、和牛子牛市場が開催されました。同市場は前回の開催と同様、マスクの装着、せり場への入場を制限するなどの対策を実施したうえでの開催となりました。今回は全体で去勢88頭、雌62頭の計150頭の取引が成立し、富山県からの出品牛では去勢31頭、雌13頭の計44頭の取引が成立しました。

平均価格は去勢で722千円(651千円)、雌で622千円(547千円)であり、全体では680千円(609千円)でした。また、最高価格は去勢で846千円(770千円)、雌で739千円(696千円)でした(()内は前回の5月市場における価格)。前回よりも子牛平均価格は去勢、雌ともにあがる相場展開となりました。このことは、飲食店の再開等による緩やかな需要回復や枝肉相場の下げ止まりが要因であると思われます。

(西部家保環境課 田知主任)

編 集 後 記

**MAKE
TOYAMA
STYLE**
BEYOND CORONA, WITH US

今月号表紙の左記のロゴマーク、お気づきになりましたか？これは、本県が制作した新たなロゴマークで、「新型コロナウイルス感染症問題による社会変化を、乗り越えて糧にすべき『チャンス』と捉え、県民一丸となって新しい富山県を創っていこう」というメッセージが込められています。新型コロナ問題の克服に向け、本県の各種施策推進のシンボルとして、様々な事業やイベントで使用し県内浸透を図っていくもので、今後皆様の目に触れる機会も増えることと思います。

発行所 富山県東部家畜保健衛生所
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6
編集者 飯田 佳代(富山県西部家畜保健衛生所)

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
電 話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140